

みたけ夢だより



9月号

横浜市立みたけ台小学校

横浜市教育情報ネットワーク【Y・YNET】公開サイト <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mitakedai/>
しっかり食べて熱中症予防

この夏を振り返って… ～何をしましたか？ 何を考えましたか？～ 校長 羽田 敏隆

39日間の長い夏休みが終わり、子どもたちの素敵な笑顔が学校に戻ってきました。

この夏は、記録的猛暑で、熱中症による健康被害のニュースがありました。

また、新型コロナウイルス感染者が急増。7月末には東京都で1日に4万人を超える感染が確認され、その後も全国的に感染リスクが高い状況が依然として続いています。親戚や友人の方々を含め夏休み中の皆さまの体調はいかがだったでしょうか。子どもも大人も健康が第一です。学校では、手洗いや消毒など、感染症対策の徹底を継続していきます。ご家庭でもご指導よろしくお願ひします。



外
時
に
は
マ
ス
ク
を
吸

今年の夏も8月15日の終戦記念日を迎えました。日本では戦後生まれが全人口の8割を超え戦争を知らない世代が大多数となっていますが、今の世界情勢をニュースで知るたびに戦争の悲惨さ・愚かさを事実から学びしっかりと考えなければならぬと感じます。

8月6日・9日は「原爆の日」。広島市、長崎市に原爆が投下されてから77年が経ちましたが、「昔にあった大変なこと」と過去のものにしてはならないと思います。

「原爆の日」での広島市長の「平和宣言」と小学生の「平和への誓い」を掲載しました。

ぜひ読んでいただきたいです。そして戦争・平和について子どもも大人も、みんなで考えていきたいと思ひます。

平和への誓い（全文）

あなたにとって、大切な人は誰ですか。家族、友だち、先生。私たちに、大切な人がたくさんいます。大切な人と一緒に過ごす。笑い合う。そんな当たり前の日常はとても幸せです。（中略）

あれから77年経ちました。今この瞬間も、日常を奪われている人たちが世界にはいます。戦争は、昔のことではないのです。

自分が優位に立ち、自分の考えを押し通すこと、それは、強さとは言えません。本当の強さとは、違いを認め、相手を受け入れること、思いやりの心を持ち、相手を理解しようとすることです。本当の強さをもてば、戦争は起こらないはずです。

過去に起こったことを変えることはできません。しかし、未来は創ることができます。悲しみを受け止め、立ち上がった被爆者は、私たちのために、平和な広島を創ってくれました。今度は私たちの番です。被爆者の声を聞き、思いを想像すること。その思いをたくさんの人に伝えること。そして、自分も周りの人も大切に、互いに助け合うこと。世界中の人の目に、平和な景色が映し出される未来を創るため、私たちは、行動していくことを誓ひます。

令和4年(2022年)8月6日

こども代表 広島市立幟町小学校 6年 バルバラ・アレックス
広島市立中島小学校 6年 山崎鈴

平和宣言（抜粋 広島市 松井一実 市長）

- 武力によらずに平和を維持する理想を追求することを放棄し、現状やむなしとすることは、人類の存続を危くすることにほかなりません。過ちをこれ以上繰り返してはなりません。
- 為政者に核のボタンを預けるということは、1945年8月6日の地獄絵図の再現を許すことであり、人類を核の脅威にさらし続けるものです。一刻も早く全ての核のボタンを無用のものにしないでほしいです。
- 他者を威嚇し、その存在をも否定するという行動をしてまで自分中心の考えを貫くことが許されてよいのでしょうか。私たちは、今改めて、『戦争と平和』で知られるロシアの文豪トルストイが残した「他人の不幸の上に自分の幸福を築いてはならない。他人の幸福の中にこそ、自分の幸福もあるのだ」という言葉をかみ締めるべきです。
- 核保有国がとるべき行動は、核兵器のない世界を夢物語にすることなく、その実現に向け、国家間に信頼の橋を架け、一步を踏み出すことであるはずです。
- 「幸せに暮らすためには、戦争や武力紛争がなく、また、生命を危険にさらす社会的な差別がないことが大切である」という思いを共有する市民社会の実現を目指します。